

八月十三日

銀河鉄道計画という、今のところは俗なキャッチコピーみたいな言葉だけが私のカバーコラムに現れたり、消えたりしている。私だってこんな三文小説みたいなホームページの状態はイヤでイヤで仕方ない。

東北の小さな町から、仙台までローカル線に乗ってみた。勿論、各駅停車である、約二時間程。前日泊まっていたホテルでは中国からの国際電話のやりとりで、少しものんびりなんて出来なかった。私の度胸なんて、私の体力の如きもので、実に大したものではない。蚊の羽音の如くに微々たるものだ。

であるから、朝起きてみたらローカル線に乗ってみようかと思いついたりしてしまう。新幹線がお隣を走っているのに、なのである。中国の都市部は新幹線である。農村と都市の格差の発生の大矛盾はとり敢えず据置いて、豪音を立てて一直線に突き進んでいる。北京の計画はその象徴の一つだ。どうやら、私の器量にはそれに、とまどわず乗切ってゆく凶太さは無い。色々と思いつむ。ストレスが沈殿しておりの如くに錯綜としてくる。それで、その反動でセンチメンタル・ジャーニーのローカル線の旅なんて事になつてしまう。情けない事おびたしい。

ローカル線に揺られながら考えた。

この気の弱さからは抜けなければどうにもならぬ。しかし、隣を走る新幹線の一直線は危ない。これにいまさら身をゆだねるわけにはいかない。ローカル線も、新幹線も共にイヤだ。イヤだ

やだの不連続線である。

だからこそ、銀河鉄道計画なのだ。この、不可視の路線のアウトラインは少しずつ、クリアーにしてゆくが、その為の、世田谷村日記に少しずつ組み直す。私は全くの実際家ではないし、芸術家のように純粹表現者でもない。その中間の、ある種の理論的妄想を現実的に生きようとしている生活者であるという、そういう局地を横断して見せたいだけだ。